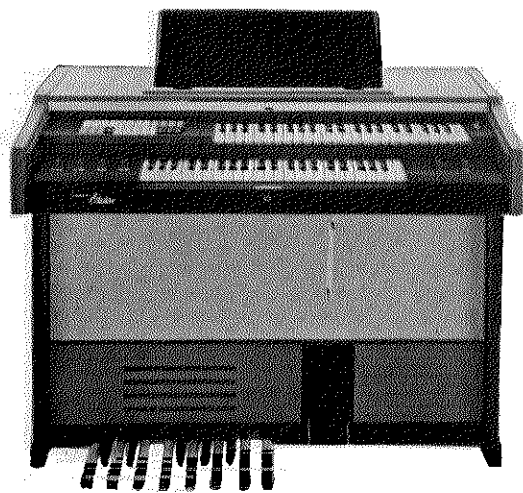
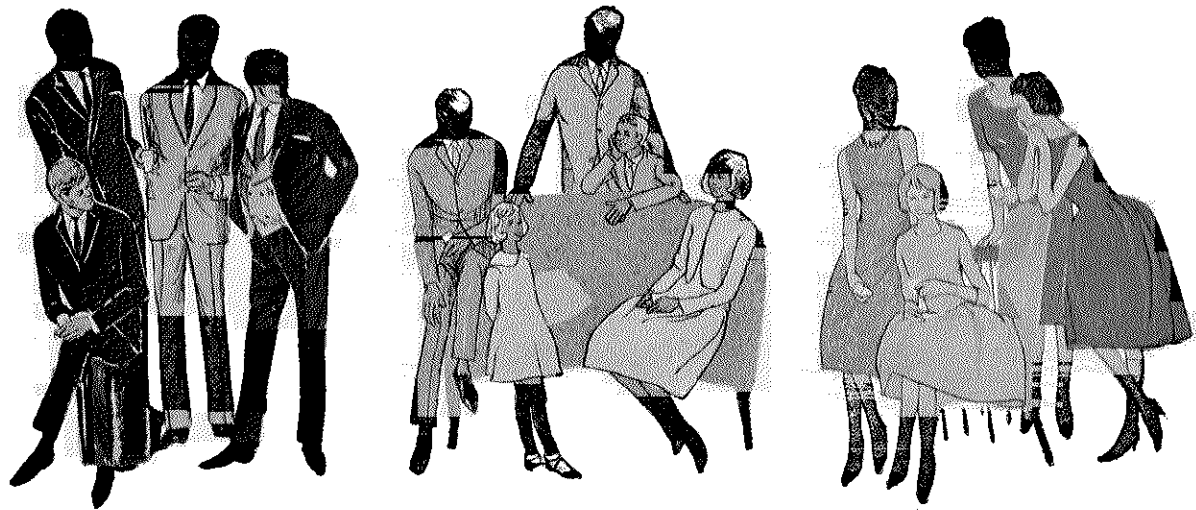


# ヤマハエレクトーン C-1の手引



（ ヤマハエレクトーンC-1型は、これまでのエレクトーンの長所をとり入れ、より電子楽器の特徴をいかすようにつくられた楽器です。

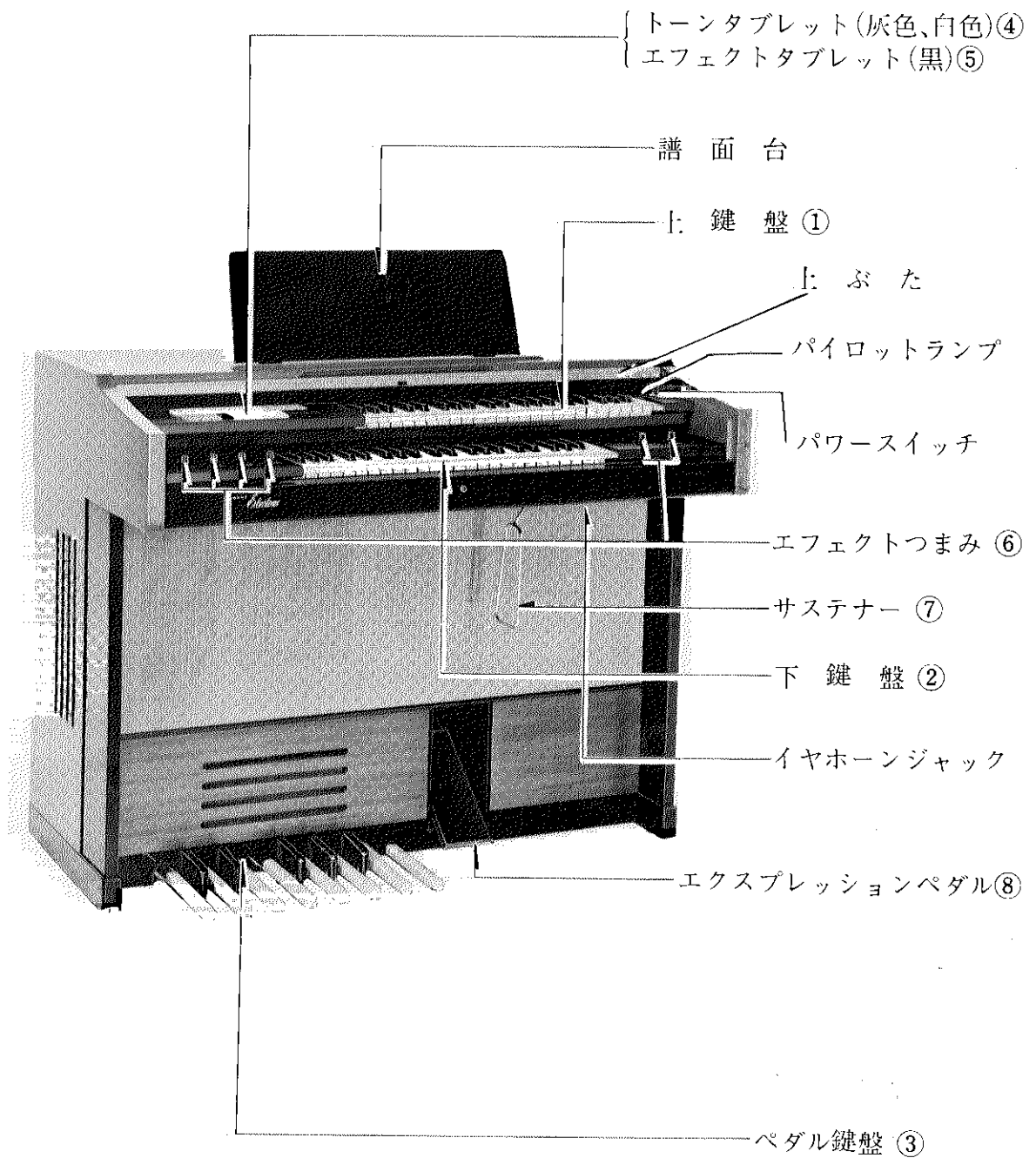
トーンレバーの操作をタブレット方式にかえて、ワンタッチシステム（one touch system）を採用、又サステーン効果の長さ、ペダルボリューム等も自由に調節できるという特色に加えて、今迄のエレクトーンのよいところがすべてそなわっています。

（ 更に大きな特徴として、回転型のスピーカーを内蔵しているため、いっそう豊かな音のひろがりを感じさせ、アンサンブルの効果も大きく、とても一台で演奏しているとは思えないほど広い表現力がえられます。

ご家庭でのサロンミュージックから、放送局、学校、教会とあらゆる分野で弾く人、聴く人を魅了する、すばらしい楽器です。

心ゆくまでお楽しみ下さい。

# ヤマハエレクトーンC-1型外観各部名称



写真について、説明しましょう。

## 鍵盤 ① ② ③

① 上 鍵盤 (Upper Manual 主に右手でメロディーパート)

② 下 鍵盤 (Lower Manual 主に左手で伴奏パート)

③ ペダル鍵盤 (Pedal 主にベースパート)

上・下鍵盤とも音域は3オクターブ半で44鍵あります。

ペダル鍵盤は1オクターブ13鍵あります。

全部の音域はC<sub>2</sub>～c<sub>5</sub>までの6オクターブ(73音)の広い音域をもっています。

## トーンタブレット ④ (灰色と白色のタブレット)

いろいろな音色を出したり又変えたりする役目を受持ちます。

それぞれの音色の名前の次に 4', 16' とかの数字が書かれているのは、とくにカプラー(トーン)タブレットと呼び倍音を作るタブレットです。4フィート、16フィートと読み、パイプオルガンのパイプの長さから来た呼び名です。上・下鍵盤の音色(基本)は8'で4'は一オクターブ高い音、16'は一オクターブ低い音が出ます。ですから1つの鍵を押しただけで2重音、3重音が響き、音に厚みがつくのです。

又タブレットの音色の名前が色分けされていますが、これは赤字が管系統の音色、緑色が弦系統、青色がオルガン・フルート系の音色という意味で、音色を組合せるときに大変便利です。

## エフェクトタブレット ⑤ (黒いタブレット)

きめられた音色にマンドリンやビブラートの効果をつけるタブレットとペダルサステーン(ペダル音の残響)がそれです。

## エフェクトつまみ ⑥

マニュアルサステーンの長さを変えたり、ペダルのボリュームを調節、上下鍵盤のバランスを調節、スピーカーを廻しステレオ効果を出したりする六つのつまみです。

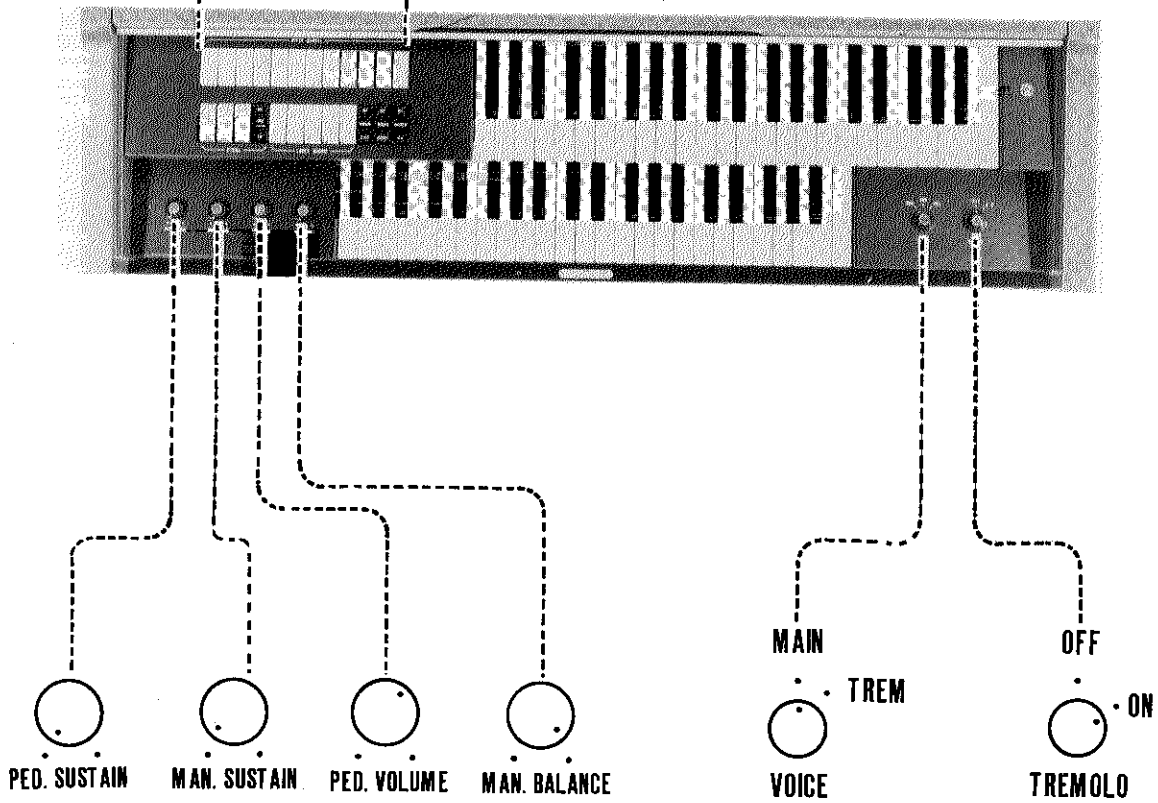
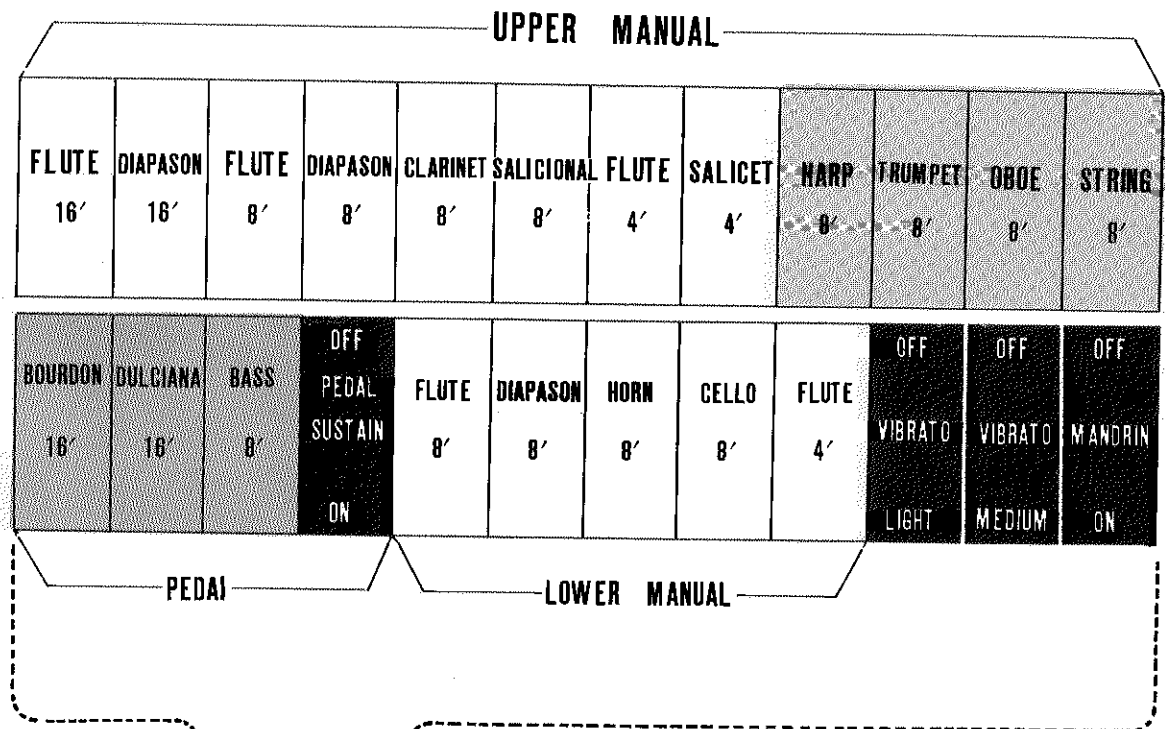
## サステナー ⑦

ヒザで右に押すと残響効果が得られます。(灰色のタブレットだけに有効)

## エクスペッションペダル ⑧

全体の音量を調節します。

# トーンタブレット使用法



各部名称の所でおわかりのことと思いますが、もう少し詳しく、タブレット、つまみの効果を説明しましょう。

白と灰色のタブレットをトーンタブレット、黒色のをエフェクトタブレットといいます。

白色のタブレットの音は専門的になりますが、閉管系の音色で倍音の含まれ方に特徴があるため音に張りがあります。灰色の方はその反対に開管系の音色で、自然音に近い倍音の組合せでナメらかな豊かな音色です。

タブレットは手前に押し、斜めの時にON、水平の時にはOFFになっています。灰色のタブレットのみにサステーン効果が得られます。

タブレットの上に UPPER MANUAL とある部分のタブレットは上鍵盤に有効で手前 PEDAL LOWER MANUAL はそれぞれの鍵盤に作用するという意味です。

## トーンタブレット (白色、灰色)

### 白色タブレット

FLUTE	16' . 8' . 4'	一番倍音が少ない音で柔らかい澄んだ音色が、遠くから鳴っている感じがします。
DIAPASON	16' . 8' . 4'	倍音が少なく、オルガンの標準音に近い輝きを持った清朗な感じ です。
CLARINET	8'	丸みのある音で、倍音がうまく配合されやや複雑な音で、表現力が豊かです。
SALICIONAL SALICET	8' 4'	パイプオルガンの弦系統の音で、柔かく哀調を帯び、とくに高音域で弦楽器の特長を表わします。
HORN	8'	くせのない、こもった音色でなめらかな感じ です。
CELLO	8'	ホルンに比べてやや倍音が強調され、柔かく豊かな音で弦楽器の音がします。

### 灰色タブレット

HARP	8'	オルガン的な澄んだ音で、レイロウな感じがします。
TRUMPET	8'	高い倍音迄たくさん含まれているので、華やかで冴えた音色です。
OBOE	8'	基音よりも強い倍音を持っているのが特長で異様な響きを持った叙情的な音です。
STRING	8'	ずっと高い倍音まで豊富に含まれていて優しい弦楽器の合奏のような感じがします。
BOURDON	16'	最低音を受けもつ音色で深みのある落ちついた感じ。

DULCIANA	16'	パイプオルガンの低音部を受けもつ名称で、巾のある豊かな音がします。
BASS	8'	力強くサステーンをかけた時はコントラバスのピチカートを感じがします。

## エフェクトタブレット (黒色)

PEDAL SUSTAIN	ONにするとペダルにサステーン効果がかかります。(残響)
VIBRATO. LIGHT MEDIUM	電氣的な音がビブラートを入れるといきいきとした柔かみのある音になり、LIGHT では1. MEDIUMでは2. 両方のタブレットを入れると3の効果ができます。三つの鍵盤全部に有効です。
MANDOLIN	音がこまかく断続的な音になり、丁度マンドリンで演奏している効果が得られます。

## エフェクトつまみ

PED. SUSTAIN (ペダルサステーン) ペダルサステーンの長さを調節	} つまみを 右に廻すにつれて 効果が大きくなっ て来ます。
MAN. SUSTAIN (マニュアルサステーン) マニュアルサステーンの長さを調節	
PED. VOLUME (ペダルボリューム) ペダルのボリュームの大きさを調節	
MAN. BALANCE (マニュアルバランス) 上・下鍵盤の音のバランスを調節	} 右に廻すにつれて、上鍵 盤が大きくなる
VOICE (ボイス)	
TREMOLO (トレモロ)	

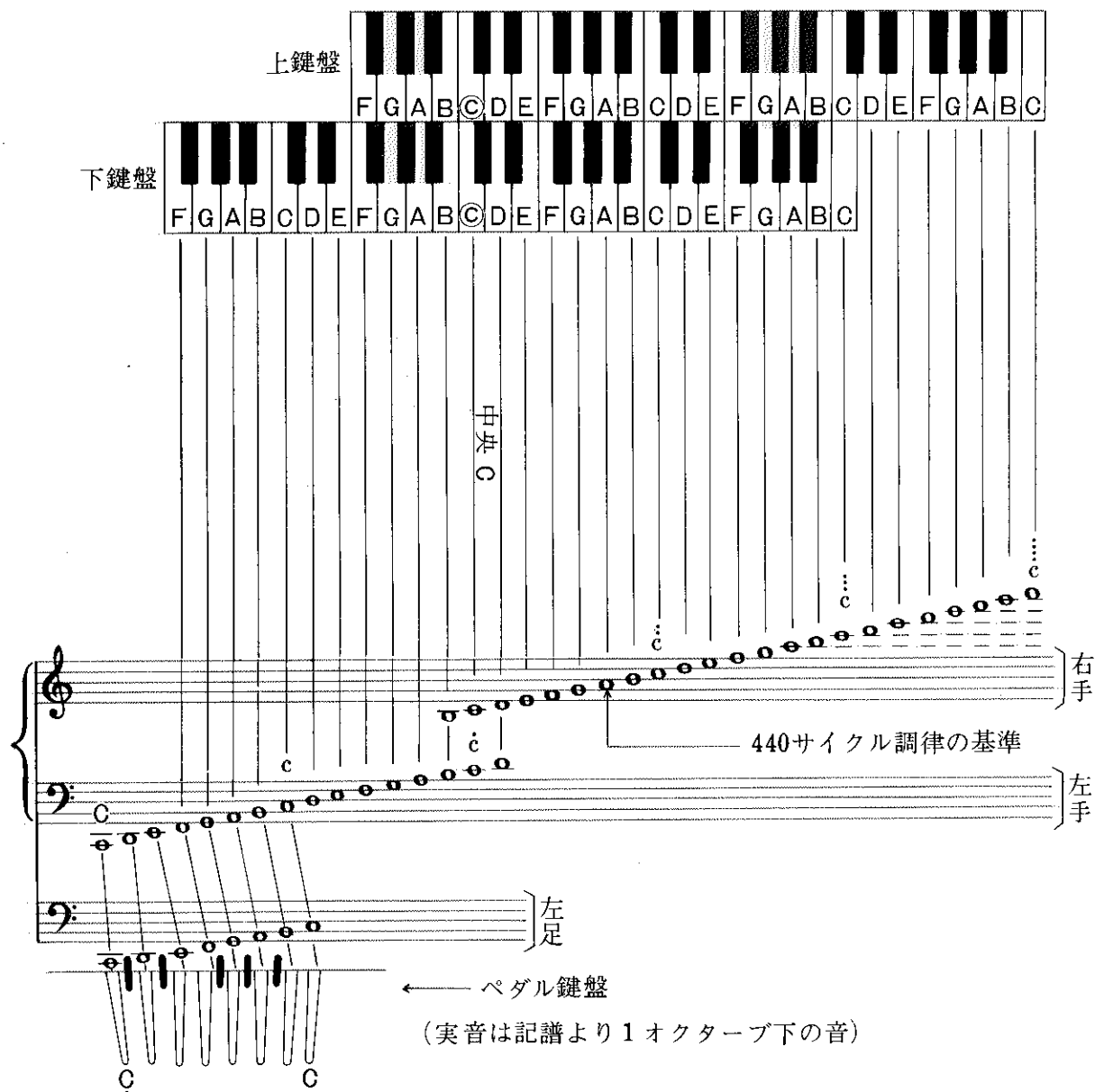
この楽器の大きな特徴の一つである、下段右側の2つのつまみ(※VOICEとTREMOLO)について少しくわしく説明しましょう。

TREMOLOをONにして下さい。VOICEがMAINになっていれば、本体のスピーカーだけが鳴って変わりありませんが、これをTREMに回すと、左の方からマンドリン効果と違った滑らかな伸びのある音が出て来ます。これは左側のスピーカーの音をトレモロローターが毎分400回転で回しているからです。そのため美しい広がりのある音を得られるのです。

ホール集会所の演奏はトーンキャビネットT-1、R-1にそれぞれ接続が可能になっています。

とくに練習のためにはイヤホンジャックが鍵盤の右の下側についており、これにイヤホンをつなげばどんなうるさい所でも、深夜でも、ひとりで心ゆくまで練習や演奏ができます。

# エレクトーンC-1の音域表



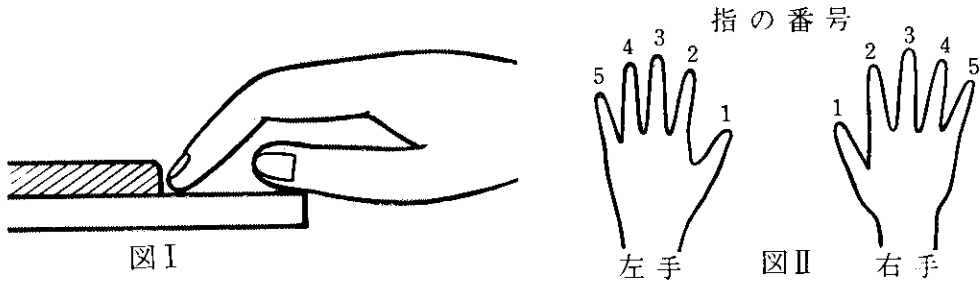


# ヤマハエレクトーンC-1型を弾くために(演奏入門)

## 1) 姿勢について

- ① 楽器の中心に椅子の前半分位の位置にらかな姿勢で座ります。
- ② 主に右手は上鍵盤(メロディーパート)左手は下鍵盤(伴奏パート)。左足で足鍵盤(ベース)を演奏します。
- ③ 右足はエクスプレッションペダルにのせます。足首の力をぬき足底全面がペダルに密着するように、そして一杯に踏み込んだ時と上げた時とその間の動きが自由になるように。
- ④ 左足は力を入れず下脚が左右にらかに動ける様に、足首の力をぬきつま先が黒鍵の手前に、そしてキーはつま先で軽く叩くように演奏します。

手の形は一度にぎった手を軽くひろげた状態にして下さい。この形は指を早く動かすためにも必要で、あらゆる有鍵楽器共通の模範的な形でもあります。〔図I〕



エレクトーンを弾くには、どうしても正しい指使いをしなければいけません。左、右、両手に指の番号をつけます〔図II〕。これはピアノ等と同じように、音符の上又は横に書いてありますから、弾く時には正しい指使いをしなくてはなりません。

〔音符と休符〕

音 符		音符と休符の長さ (4分音符を一拍として)	休 符	
名 称	形		形	名 称
全 音 符	○			全 休 符
付点2分音符				
2 分 音 符				2 分 休 符
付点4分音符				
4 分 音 符				4 分 休 符
8 分 音 符				8 分 休 符

- 音符は、音の高さと長さを示します。
- 休符は、休みの長さを示します。

〔拍 子〕

$\frac{2}{4}$ 、 $\frac{3}{4}$ 、 $\frac{4}{4}$  → 小節の中の単位音符の数  
 $\frac{4}{4}$  → 拍子の単位になる音符

〔変化記号〕

#……………半音上げる記号  
 b……………半音下げる記号  
 ♯……………上げたり、下げたりしたものを、  
 もとにもどす記号

タッチ レガート、スタカート、デタッシュ (テヌート) (マルカート)

☆ レガート 練習Ⅰ

右手 1 2 3 4 5 4 3 2 1 3 5 3 1

左手 5 4 3 2 1 2 3 4 5 3 2 1 3 5

① トーンタブレットは自分で考えましょう。

エレクトーンに限らず、オルガン系の楽器で最も大切なのがこのレガートです。ピアノとくらべて実際の音はどの様になっているのでしょうか。

ピアノのレガート

エレクトーンのレガート



ですからこの楽器をピアノ式のレガートで弾くと音が重なって汚い音になります。又短かめに弾きますと、はなした瞬間にその音が切れますので、切れない様に次に押す音の指の準備のためにいろいろなテクニックが必要になってきます。

イ) 指かえ 練習Ⅱ

1 1 2 3 4 2 3 5 4 3 2 5 1 2 3 4 1 5 4 3 2 3

② 前の指を次の指に変える時に(長い時はよいが)なるべく早く変え、後の指で延ばす様にする。

ロ) 指くぐり 練習Ⅲ

右 5 2 1 2 1 2 3 1 2 5 2 1 2 1 2 3 5 1 2

③ くぐされた指のはなれる時に注意。

ハ) 同音打鍵 練習Ⅳ

右 1 2 1. 3 4 5 2. 3 1 2 2 1

左 5 4 3 2 1 3 5 4 4 5

④ 指を完全にあげずに音が切れたらすぐ打ち直す。

その他指よせ、指の拡大がありますが、特に指変えはしばしば使われます。又いろいろな指変えがありますから、よく練習しましょう。



### 3) エクスプレッションペダルの使い方


#### 練習 VII




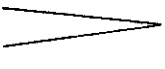
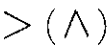
④フレーズのエクスプレッションは少し動く程度で、波がうつ様にならない

#### イ) フレーズのエクスプレッション

エレクトーンは電子楽器ですから、指のタッチで強弱をつける事は出来ません。音楽の表情は全てこのエクスプレッションペダルで操作されるのです。音が常に一定の強さでは、それは音楽ではなく、物理的な音なのです。(Vibを深くかけても同じ) 人の唱う声を聞いて下さい。感情の盛り上った所は大きな声で、又静かな所では自然に小さく歌います。それが一つの感情を表わすのです。エレクトーンでもこれと同じです。フレーズを自然に唱えば大変上手に聞えますし、反対におかしな使い方では変な音楽が出来上ります。

フレーズには普通スラー (  ) がつけられています。エクスプレッションペダルはメロディーパート (主に右手) と密接なつながりがあります。ですから常にフレーズの入りは少し弱めに、又フレーズの終りも少し弱めに終る事です。これをフレーズのエクスプレッションといい、基本的な動作の一つです。

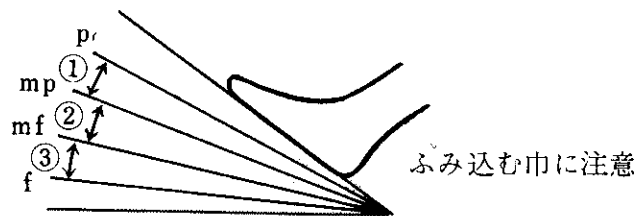
[強弱に関するものでよく使われる記号]

<i>pp</i>	pianissimo (ピアニッシモ)	ごく弱く		crescendo (クレッシェンド)	だんだん強く
<i>p</i>	piano (ピアノ)	弱く		decrescendo (デクレッシェンド)	だんだん弱く
<i>mp</i>	mezzo piano (メゾピアノ)	やや弱く	<i>dim</i>	diminuendo (ティミヌエンド)	だんだん弱く
<i>mf</i>	mezzo forte (メゾフォルテ)	やや強く	> (  )	accento (アクセント)	特に強く
<i>f</i>	forte (フォルテ)	強く	<i>fp</i>	fórté piano (フォルテピアノ)	強くただちに弱く
<i>ff</i>	fortissimo (フォルティッシモ)	ごく強く			

## ロ) 曲全体のエクスペクション

### 練習Ⅶ

( ) はフレーズのエクスペクション



普通楽曲はいくつかのフレーズが集って1曲を構成しています。それがいつも同じ表情では無表情に等しいでしょう。ですから曲全体のエクスペクションが必要になって来ます。

練習Ⅶを書いてある通りに弾きますと曲全体が美しく聞えます。普通エクスペクションペダルは少しづつ滑かに操作します。

急激にふみますとアクセントになります。これは始めのうちはあまり必要がないでしょう。始めは止めて置くか静かに動かすかどちらかにしましょう。

高音域での単音の *f* は少し控えめに、低音域では少々オーバーに、クレッシェンドの頂点は強拍になるのが自然です。

楽しい曲は本当に楽しそうに、悲しい曲は静かに、どんな人でもその曲想が、ほんの一寸した操作で自由に表現出来るのが、このエレクトーンの最も大きな長所の一つです。

## 4) ペダル(足鍵盤)の奏法

足で正しい音程を弾く事は、一寸考えるとむずかしい様に思われますが、全部で音が7つしかないのですから1日に1つづつおぼえても一週間で全部おぼえられます。しかし始めに悪いくせをつけますとなかなか直りにくいものです。ですから始めがカンジンです。

### 練習Ⅸ

まず座る位置をいつも同じ所にしましょう。普通足鍵盤が1オクターブ以上ある場合、体の中心の音より4度下の音が左足の真下の音になります。ですが体の大小、足の長短で多少異なります。このエレクトーンの場合1オクターブですので、cかdの所に体の中心を持って来ますと、左足はGかAに来るはずです。

ようするに常に同じ所に座らなければ左足は同じ所にいきません。

一般的な注意事項は

- ①下脚が時計の振子の様にヒザを中心にらくに左右に動く。
- ②演奏は足首で、ヒザを上下すると足が疲れ、早いテンポの曲の演奏が困難になる。
- ③白鍵は真中より少し奥をふみ、指のつけ根が白鍵の真中に来るように。
- ④演奏中に鍵盤をみますと、姿勢がくずれ、ヒザを開いてのぞき込むと、足に不自然な力が入る。

## 練習 X



足鍵盤を演奏する場合、この様な誤りが起きやすい。

- ①座る位置が前過ぎ、ヒザが前に出る。
- ②Gより上(A, H, C)を弾く時、踵が内に入り、ヒザが外側を向く。
- ③短かく切って(スタカート)弾く時、必要以上につま先が上る。
- ④座る位置が一定でないので、いつまでも位置がオボえられない。
- ⑤下のC(C)を弾く時にヒザが内側を向き、不自然な力が入る。
- ⑥ヒザが上下する。(足首に力が入っている)
- ⑦足全体でたたきつけるように弾く。(足全体に力が入っている)
- ⑧恐ろしがって演奏するため、かえって音程がとりにくい。

一般的にこの様な間違いが多い様です。

ようするに足鍵盤を間違わずにらくに弾ければよいのです。どこか痛いのは、必ず不自然な所があるからです。一寸した注意でらくに弾けるのです後は練習です。足鍵盤は怖がらずに、堂々と演奏しましょう。

巻末についている曲をなんべんもくり返して弾いてみましょう

貴方はもう立派なエレクトーン奏者です。

# 記譜法について

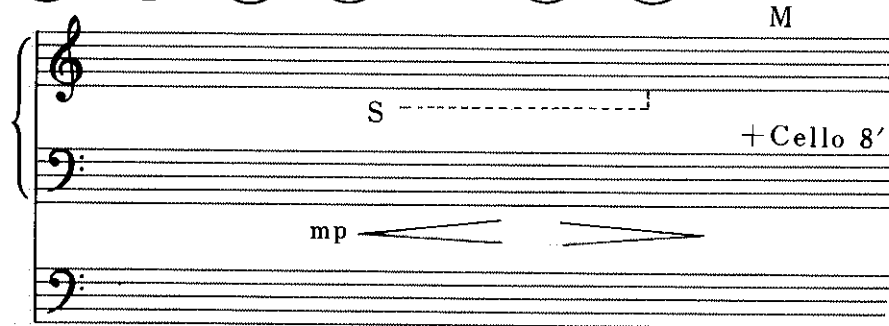
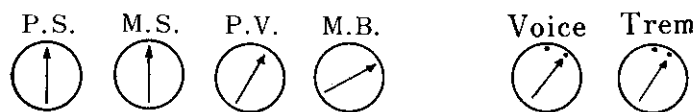
エレクトーンの楽譜は、オルガンの楽譜と同様、三段に書かれています。それは、特に指定のないかぎり、一番上段が右手で弾く上鍵盤(Upper Manual)、二段目は、左手の下鍵盤(Lower Manual)、そして一番下が、ペダル鍵盤(Pedal)のための譜になっています。



ペダル鍵盤の音は、16'のトーンタブレットを用いた場合、実際に出る音より一オクターブ高く記譜されますが、これはコントラバスの場合と同じです。

C-1の楽譜における音色に関する指定は、原則として、楽譜の最初の頁の左上に図の様に鍵盤別にまとめて記します。それに書かれて居るタブレットを押せば良いのです。又、バランスとサスティーンの指定もそこで記されますから、実際の楽器について居るツマミを矢印の方向にセットします。

Upper : Flute 16' Flute 8' Salicet 4' Harp 8'  
Lower : Diapason 8' Horn 8'  
Pedal : Dulciana 16' Bass 8'  
Pedal Sustain : ON  
Vib : L.



サスティーンの指示は、図にある様に S ..... と記しますが、勿論この場合、サスティーン効果を有するタブレットをあらかじめ押しておかないといけません。

マンドリン効果はMの記号を図の位置に記し、それを切る時はMとします。

ヴィブラートはVib : L (Light) 又は Vib : M (Medium) と記します。

曲の途中でタブレットを増減する場合は、夫々の鍵盤の譜の上に、例えば +Flute 8'、或いは -Flute 4' というように記します。

音の強弱に関する記号は、図の如く、下鍵盤とペダル鍵盤の間の空間に記します。

# C-1 型の効果

このエレクトーンには大別して三つの著しい効果があります。一つは、トレモロ用スピーカーを回転させない場合の音色の変化によるもの、もう一つはスピーカーを回転させることによって、このエレクトーン独特の立体的な奥行のある響きを生じさせるもの、もう一つは所謂オルガン効果です。

## 1) Tremolo: off の場合の音色の変化

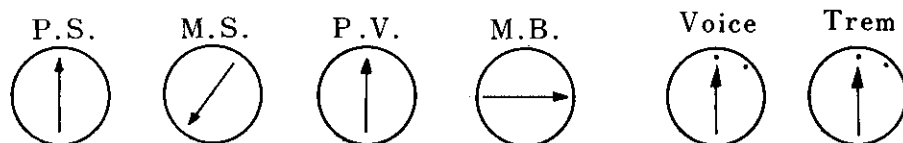
この場合は色々な楽器の効果を出すことができます。曲の途中でトーン・タブレットを変えることによって演奏効果は更に増し、色々な楽しむ事が出来ます。次にその例をお目にかけてみましょう。

上鍵盤以外の音色のセットは一応共通にして置きます。

Lower : Flute 8'

Pedal : Dulciana 16' Bass 8'

Pedal Sustain : ON



オーボエ：タブレットOboeを使用します。

Vib : L.

クラリネット：タブレットClarinetを使用します。



ヴァイオリン：タブレットStringを使用します。

Vib：M.

Musical score for Violin and Piano. The Violin part (top staff) features a melodic line with slurs and accents. The Piano part (middle and bottom staves) consists of sustained chords in the right hand and a simple bass line in the left hand. The time signature is common time (C).

マンドリン：タブレットを次の様に組合せてMandolinをONにします。

Upper：Diapason 8' Salicional 8' Salicet 4'

Vib：L.

Musical score for Mandolin and Piano. The Mandolin part (top staff) has a rhythmic melody with slurs. The Piano part (middle and bottom staves) features chords in the right hand and a rhythmic bass line in the left hand. The time signature is 2/4.

トランペット：タブレットTrumpetを使用します。

Musical score for Trumpet. The part (top staff) shows a melodic line with slurs and accents. The time signature is 6/8.

## 2) Tremolo: onの場合

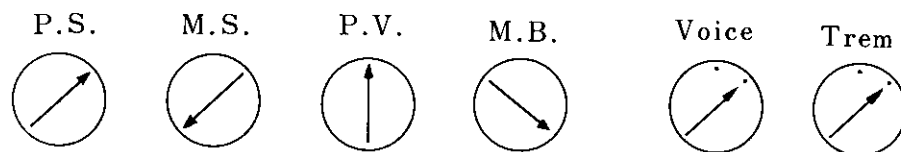
この場合は奥行の深い独特の効果を生み出し、色々なタブレットを組合わせることによって、様々な美しい音色を生み出しますが、曲の内容によるいくつかの型をお目にかけてみましょう。

矢張り上鍵盤以外の音色のセットは共通にして置きます。

Lower：Flute 8' Diapason 8'

Pedal：Dulciana 16' Bass 8'

Pedal Sustain：ON



# セミ・クラシック

Upper : Flute 8' Dispason 8'

Musical score for 'セミ・クラシック'. The score is written for three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. It contains a melodic line with a long slur over the first six measures. The middle staff is a grand staff (treble and bass clefs) with a key signature of one sharp and a 3/4 time signature, featuring block chords. The bottom staff is in bass clef with a key signature of one sharp and a 3/4 time signature, featuring a simple bass line.

# ムード (1)

Upper : Flute 16' Flute 8'

Musical score for 'ムード (1)'. The score is written for three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of two flats (Bb, Eb) and a 3/4 time signature. It contains a melodic line with a long slur over the first six measures. The middle staff is a grand staff (treble and bass clefs) with a key signature of two flats and a 3/4 time signature, featuring block chords with a long slur. The bottom staff is in bass clef with a key signature of two flats and a 3/4 time signature, featuring a simple bass line.

# ムード (2)

Upper : Flute 16' Flute 8' Salicional 8'

Musical score for 'ムード (2)'. The score is written for three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a common time (C) signature. It contains a melodic line with a long slur over the first four measures. The middle staff is a grand staff (treble and bass clefs) with a key signature of one sharp and a common time signature, featuring block chords with a long slur. The bottom staff is in bass clef with a key signature of one sharp and a common time signature, featuring a simple bass line.

# ラテン

Upper : Diapason 16' Flute 4'

# ジャズ

Upper : Diapason 16' Dispason 8' Salicional 8' Flute 4' Salicet 4'

# オルガン

この場合はTremolo : off にして使用します。色々な組合せがあると思いますが、一例を掲げましょう。

Upper : Diapason 8' Salicional 8' Salicet 4'

Lower : Diapason 8' Cello 8'

Pedal : Dulciana 16'

P.S.

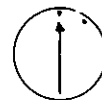
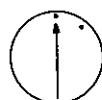
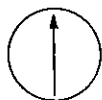
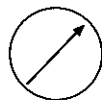
M.S.

P.V.

M.B.

Voice

Trem





日本楽器製造株式会社